

小松の夏祭り2025 暑さ指数に基づく対応について

小松一・二・三丁目町会
町会長・祭典委員長：廣瀬 房男
祭典実行委員長：武田 勝

自然環境や社会構造等の変化に伴い、最近は以前以上に「熱中症対策」が必要になっています。都市部、地方ではその誘因にはいくつかの違いはあるかもしれませんが、どこにいてもその可能性を否定することは出来ません。

熱中症を引き起こす条件には、気温が高い、湿度が高い、日差しが強いなどの環境条件のほか、乳幼児や高齢者、暑さに慣れていないなどの体の条件、長時間の屋外作業などの行動の条件があります。これらの環境条件の下で、体から熱が放出されにくくなることで熱中症が発生しやすくなります。過去の夏祭りでは、残念ながら熱中症を発症してしまった方も出てしまいました。

そこで、本年は「暑さ指数」等の指標を参考にしながら、「安全な夏祭り」の対応を強化していきます。山車・神輿の列に、それぞれ「給水車・救護車」を帯同させることで、その安全を確保していきます。

更に、夏祭りの開催そのものを判断する基準として「暑さ指数（環境省発表）」をその指針として、可否を総合的に判断していくことにいたしました。

前日の予測値、当日の実測値を参考に、開催当日の「午前8時、午後3時」にそれぞれ開催の可否を判断します。祭典委員長を最終責任者として、主催幹部にて協議し、決定をお伝えしたいと考えています。

基準：気温35℃以上、暑さ指数3.1以上 は原則中止といたします
（開始時点での予測値・実測値を勘案し総合的に判断します）

夏祭りにご参加いただく皆さまの「安心・安全」が第一です。
ご理解、ご協力をお願い致します。

小松の夏祭り2025 暑さ指数に基づく対応について

暑さ指数とは？

暑さ指数（WBGT（湿球黒球温度）：Wet Bulb Globe Temperature）は、熱中症を予防することを目的として1954年にアメリカで提案された指標です。単位は気温と同じ摂氏度（℃）で示されますが、その値は気温とは異なります。暑さ指数（WBGT）は人体と外気との熱のやりとり（熱収支）に着目した指標で、人体の熱収支に与える影響の大きい①温度、②日射・輻射（ふくしゃ）など周辺の熱環境、③気温の3つを取り入れた指標です。なお、当サイトにおいては気温との混同を避けるため、暑さ指数(WBGT)について単位の摂氏度(℃)を省略して記載しています。

$$\text{暑さ指数 (WBGT)} = \frac{1}{\text{乾球温度 (気温)}} : \frac{7}{\text{湿球温度}} : \frac{2}{\text{黒球温度}}$$



暑さといっても、気温だけではないんだね！

湿球温度は湿度の影響を、黒球温度は輻射熱の影響を主に示しているんだ。



湿球温度の占める割合が大きいのは何でだろう？

湿度が高い場所では汗が蒸発しにくいので、身体から空気へ熱を放出する能力が減少してしまうんだ。それで熱中症になりやすくなるんだよ！



こまめに水分を補給して、絶対無理しないでね！！

みんなで防ごう熱中症！



土浦市イメージキャラクター
つちまる

運動に関する指針

気温 (参考)	暑さ指数 (WBGT)	熱中症予防運動指針	
35℃以上	31以上	運動は原則中止	特別の場合以外は運動を中止する。 特に子どもの場合には中止すべき。
31℃以上35℃未満	28以上31未満	厳重警戒 (激しい運動は中止)	熱中症の危険性が高いので、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける。 10～20分おきに休憩をとり水分・塩分の補給を行う。 暑さに弱い人※は運動を軽減または中止。
28℃以上31℃未満	25以上28未満	警戒 (積極的に休憩)	熱中症の危険が増すので、積極的に休憩をとり適宜、水分・塩分を補給する。 激しい運動では、30分おきくらいに休憩をとる。
24℃以上28℃未満	21以上25未満	注意 (積極的に水分補給)	熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。 熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水分・塩分を補給する。
24℃未満	21未満	ほぼ安全 (適宜水分補給)	通常は熱中症の危険は小さいが、適宜水分・塩分の補給は必要である。 市民マラソンなどではこの条件でも熱中症が発生するので注意。

暑さ指数は、他に「日常生活に関する指針」もあります。
ここでは割愛します。